

今、算数・数学科で目指したい授業 —特に、この3点に留意して—

ポイント1 単元指導構想を作成して指導の見通しをもつ

- ◎ 「教えること」「考えさせること」「活動させること」「習熟させること」などをバランスよく配列することが大切です。
- ◎ 特に、算数的(数学的)活動を通して指導することは勿論のこと、言語活動の充実を図る授業を単元のどこに組み込むのかを明確にして指導することが必要です。

ポイント2 「めあて(課題)ー学習内容ーまとめ」の整合性を図る

- ◎ 単元指導構想(上記ポイント1)を受けて、本時では学習のめあて(課題)、それを追究(解決)する活動、そしてその着地点(まとめ)が一本筋の通った流れになっていることが大切です。
- ◎ 本時の授業を構想する際に、もう一度これら3つが一つの流れになっているかを確認してほしいと思います。

ポイント3 自分の考えをもたせ、比較検討の場を設定する

- ◎ 比較検討をする理由 → 数学的な見方や考え方のよさを味わわせるため
- ◎ 比較検討の視点

- ① 整合性の視点
- ② 簡潔性の視点
- ③ 明瞭性の視点
- ④ 一般性の視点

- ◎ 言語活動の充実を図るために、自分の考えを発表させる授業を多く見かけます。それも大切ですが、そのうえで比較検討の場を設定し、数学的な見方や考え方のよさを感じさせたいところです。そこに算数・数学科の教科の本質があると考えます。
- ◎ 多様な考えを比較検討するためには、自分の考えを説明したり、話し合ったりすることが必要になります。すなわち、比較検討する場を設定することで、いっそう言語活動の充実が図れるようになります。